**22 「文与可画篔簹谷偃竹記」**

レ　、 不二 　一。四　方　之　人　二 ＊　一　而　 者、 足　相二︲ 　於　　一。与　可　レ　、①二 　一 而　、　「Ａ吾　ト二　　一レ。」 　大　夫　レ　、　二 　一。下 与　　ⓐ自二 　一上、而　余　二 　一。与　可　レ 　ⓑ遺レ　、「　二 士　大　一、②　墨　 一 派、 二　一。二 　一レ 。韈　材　Ｂレ 二　於　一　矣。」

シト

語　注

与可＝。の画家。特に竹画に優れた。

貴重＝値打ちがあると思う。

縑素＝白絹。書画をかくのに用いる。

韈＝くつした。

士大夫＝官職にある人。

口実＝語りぐさ。

洋州＝地名。現在のにあった。

為二 徐　州一＝徐州の知事であった。徐州は現在の付近。

彭城＝徐州にあった地名。

問1　二重傍線部ⓐ「自」、ⓑ「遺」の読みを、送り仮名も含めて平仮名で答えよ。（現代仮名遣いでよい。）（3点×2）

ⓐ〔　　　　　　　　　　〕　ⓑ〔　　　　　　　　　　〕

問2　波線部Ａについて、

⑴　空欄を埋めて書き下し文を完成させよ。（完答で6点）

「吾〔　　　　〕以てと〔　　　　　　　　〕。」と。

⑵　空欄を埋めて口語訳を完成させよ。（6点）

私は（この白絹を）〔　　　　　　　　　　　　〕と。

問3　波線部Ｂについて、

⑴　空欄を埋めて書き下し文を完成させよ。（完答で6点）

「〔　　　　　　　　〕まる〔　　　　　　　　〕。」と。

⑵　空欄を埋めて口語訳を完成させよ。（完答で6点）

〔　　　　　　　　〕集まるに〔　　　　　　　　〕と。

問4　傍線部①について、文与可がこのような行動を取ったのはどうしてか。その説明として最も適当なものを次から選べ。（6点）

ア　世間の人々が、自分の絵の才能を認めてくれず、貧しい暮らしをつづけなければならなかったから。

イ　世間の人々が、竹の絵の鑑定をしてほしいと言って、大勢やってくるのがうっとうしかったから。

ウ　自分の絵を欲しがる世間の人々が、くつしたの材料にしかならないような粗末な白絹を持ってきたから。

エ　自分の絵を欲しがる世間の人々が、絵の代金代わりとして、白絹を持ってきたのが不満だったから。

オ　自分の絵を欲しがる世間の人々が、白絹を持って大勢やってくるのがうっとうしかったから。

〔　　　〕

問5　傍線部②はだれを指しているのか、具体的に答えよ。（6点）

〔　　　　　　　　　　〕

問6　本文の内容に合致するものを次から二つ選べ。（4点×2）

ア　文与可は自分の絵に値打ちがあるとは思っていなかった。

イ　文与可が腹を立てたことを口実に、士大夫たちは絵を書くことを迫った。

ウ　文与可は自分の絵の流派を広めるために洋州から徐州に帰ってきた。

エ　文与可が洋州から帰ってきたころ、はにいた。

オ　文与可はをついて、人々が蘇軾の所へ殺到しないようにした。

〔　　　〕〔　　　〕

練習問題〈再読文字〉

次の各文について、空欄を埋めて書き下し文を完成させ、口語訳せよ。

①　秋　 三　　見二 白　一。

たりて（　　　　　　　　　）を（　　　　　　　　　　）。

（ 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

②　民　レ　二　飢　色一。

（　　　）（　　　　　　）。

（ 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

③　　二　レ　　一レ　。

へば（　　　）をきてを（ 　　　　　　　　　　）。

ごとシ

（ 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

④　夜　 レ　　歓　レ　。

きことにたり（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

べシ

（ 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）。

【解答】

問1　ⓐより　ⓑおくりて

問2　⑴将に・為さんとす

　　　⑵（私はこの白絹を）くつしたにしてしまうぞ。

問3　⑴当に子に・べし

　　　⑵きっと君（の所）に・違いないよ

問4　オ

問5　筆者（蘇軾）

問6　ア・エ

【練習問題解答+口語訳】

①未だ曾て・見ず

　秋が来てからまだお日様を見ない

②且に・有らんとす

　民衆は飢えようとしている

③猶ほ・救ふがごとし

　まるで薪を抱えて火事を消しに行くようなものだ

④宜しく尽くすべし

　夜は一年のように長いのだから思う存分に楽しむほうがよろしい